Vision DBCopy Tool

取扱説明書

（Oracle 2 Access 版）

2009 年 07 月 09 日作成

バージョン　：　1.1.0

株式会社シービジョン

改定履歴

日付	変更内容
2008/10/27	初版
2009/01/14	第二版　バージョンアップ
2009/06/05	フリーソフト版追加
2009/07/09	画面レイアウトの変更

－目次－

1　はじめに

本資料は、DBCopyTool(Oracle 2 Access)の操作説明を記述した資料です。

DBCopyTool(Oracle 2 Access)では、Oracle DBの指定したテーブルのデータをAccessDBにバックアップします。 また、バックアップしたデータをテーブル単位に指定して、Oracle DBにリストアすることが可能です。

AccessDBへのバックアップは、簡単な3ステップでの設定で行なえます。

①DB の設定
　バックアップ対象とバックアップ先のデータベースを指定します。
②テーブルの設定
　バックアップ対象のテーブルを指定します。
③抽出条件の設定
　抽出条件（WHERE 文）を自由に設定できます。

以上でOracleDBからAccessDBへとバックアップが可能になります。

【必要環境】 Microsoft Access （2003以降）、Oracle 接続環境（ODBC 接続）

注意事項
　環境の設定画面は、お使いのPC環境により異なる場合があります。

※　全機能を網羅した製品版の他に、一部機能を縮小したフリーソフト版を用意しています。

１－１ フリーソフト版の概要

フリーソフト版では、製品版に対して以下の機能を縮小した試用版となっています。

No.	概要	製品版	フリー版
１	対象データベースの登録	複数件可能	１件のみ登録可能
２	対象テーブルの選択	複数テーブル可能	１件のみ選択可能
３	抽出(入力)条件の設定	設定可能	設定可能
４	バックアップ条件の設定	抽出又は切取設定可能	抽出設定のみ可能、切取設定は不可能 （元データの誤消去を防ぐため）
５	タイマー設定・即時実行	可能	即時実行のみ設定可能
６	バックアップデータの復帰	可能	不可能(元データの破壊を防ぐため)
７	操作記録ログの照会	可能	可能
８	管理(利用者マスタ)	複数登録可能	登録不可能

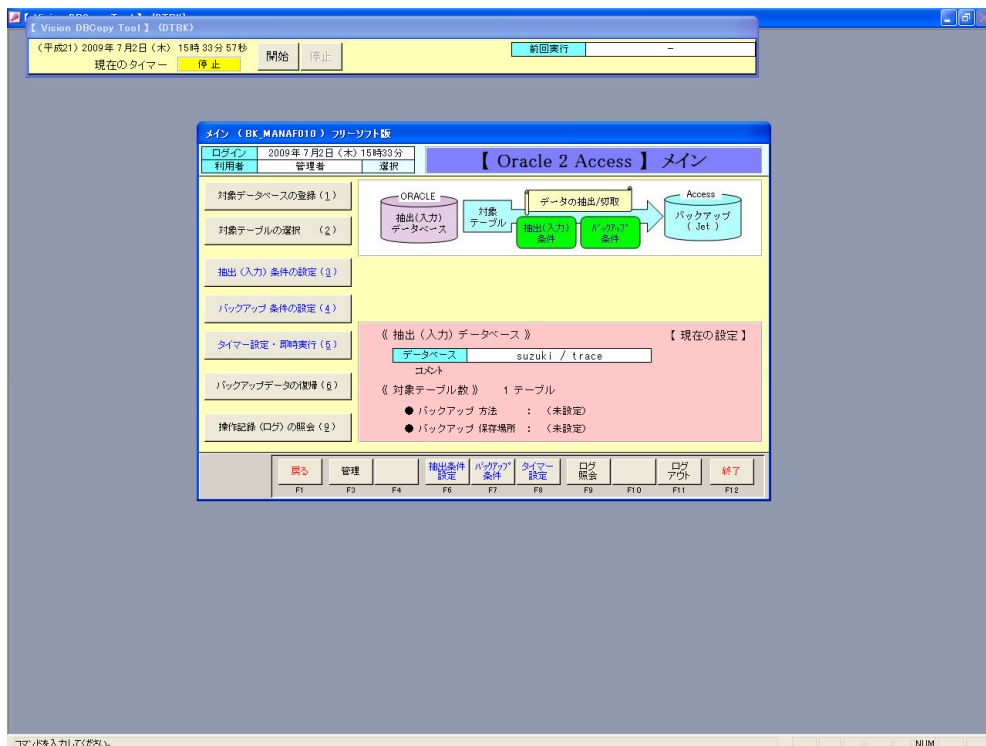
2 操作方法

DBCopyToolの操作方法を以下に記します。

２－１　システムの起動方法

デスクトップにあるアイコン( )をダブルクリックして下さい。

システムが起動され、下記のようなログイン画面が表示されます。

あらかじめ設定したログイン ID およびパスワードを入力し、【ログイン】ボタンを選択します。
（設定の方法は『ユーザーの設定』参照）
正しいログイン ID とパスワードが入力された場合は、下記のようなメイン画面が表示されます。
＊タイマーが起動している場合は、画面上のタイマー画面が「開始」になっています。
　タイマーの停止/開始はログインしてから操作可能になります。

２－２　システムの終了方法

システムを終了する場合は、上記のメイン画面で【終了(F12)】ボタンを選択して下さい。
(Function　キーの「F12」の押下でも可能です)
「DBCopyToolを終了しますか？」の確認のメッセージが表示されますので、終了する場合は【はい】を選択して下さい。DBCopyToolが終了します。

２－３　メイン画面

起動後に表示されるメイン画面を説明します。
メイン画面には、下記に示すように、各機能を呼び出すためのボタン群のエリアが2つあります。
それぞれのエリアの機能について説明します。

■メインボタンエリア

No.	表示名	機能
1	対象データベースの登録	DBCopyTool で扱うデータベースを登録します
2	対象テーブルの選択	バックアップ対象とするテーブルを選択します
3	抽出(入力)条件の設定	バックアップ時のデータ抽出条件を設定します
4	バックアップ条件の設定	バックアップ方法や保存場所を設定します
5	タイマー設定･即時実行	タイマーの設定をします。即時実行もできます
6	バックアップデータの復帰	バックアップしたデータを Oracleにリストアします
7	操作記録ログの照会	操作履歴、エラーログ等を表示します

■機能ボタンエリア

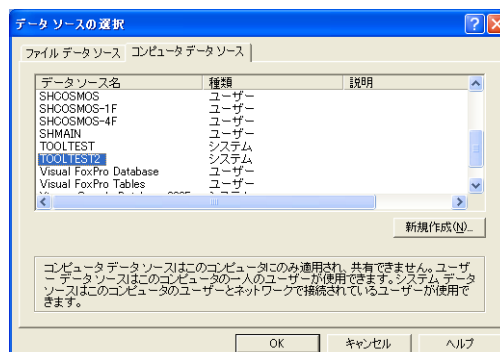
No.	表示名	機能
1	戻る	前画面に戻ります
2	管理	利用者マスタ、ログファイルの管理を行います
3	抽出条件の設定	バックアップ時のデータ抽出条件を設定します
4	バックアップ条件	バックアップ方法や保存場所を設定します
5	タイマー設定	タイマーの設定をします即時実行もできます
6	ログ照会	操作履歴、エラーログ等を表示します
7	ログアウト	ログアウトしてログイン画面を表示します
8	終了	DBCopyTool プログラムを終了します

機能ボタンエリアの No2～No6 は、メインボタンエリアに表示している機能と同様の機能です。
また、設定した内容は、前回DBCopyToolを終了する際に設定していた状態が保存されています。

２－４　対象データベースの登録

メイン画面から【対象データベースの登録】ボタンを選択します。
下記の画面が表示されます。

新規起動時は、選択するデータベースが表示されていませんので、【データベースの追加】ボタンを選択して、候補となるデータベースを追加してください。

【データベースの追加】ボタンを選択すると、下記ダイアログが表示されます。
画面中の「コンピュータデータソース」の TAB を選択して、候補の中からデータソースを選択して下さい。対象となるデータソースが表示されない場合は、あらかじめ「コントロールパネル － 管理ツール － ODBC データソースアドミニストレータで対象にする oracle　DB を登録してから設定して下さい。
＊26 ページの「3－1　ODBC データソースアドミニストレータの設定」を参照してください。

目的のデータソースを選択すると、画面中央のリストに追加したデータベース名が表示されます。
必要に応じてコメントを入力して、画面中央の【登録（設定）】ボタン、または、画面下の機能エリアにある【登録（設定）】ボタン、または Function キーの F7 キーを選択すると、抽出対象とする DB として登録されます。バックアップ対象とする DB が複数存在する場合は、この画面で対象とする DB を選択して、【登録（設定）】を行うことで、対象を切り替えることができます。
また、DB を選択した状態で【削除】キーを選択すると対象とする DB のリストからの削除ができます。
対象となる DB を登録すると Oracle より DB のテーブル情報が読み込まれます。

■機能ボタンエリア

No.	表示名	機能
1	戻る	前画面に戻ります
2	DB 選択	画面の DB 選択リストをアクティブにします
3	登録（設定）	DBCopyTool で扱うデータベースを登録します
4	ログアウト	ログアウトしてログイン画面を表示します
5	終了	DBCopyTool プログラムを終了します

機能ボタンエリアの No2～No3 は、同画面にある同じ名称のボタンと同様の機能です。

２－５　対象テーブルの選択

メイン画面から【対象テーブルの選択】ボタンを選択します。
下記の画面が表示されます。

画面中には、「対象データベースの選択」画面で登録しているデータベースのテーブル情報が表示されています。
テーブル一覧から、各テーブル名の左にあるチェックボックスにチェックすることで、選択テーブル一覧にテーブル名が表示されます。チェックを外すと選択テーブル一覧からテーブル名が削除されます。バックアップの実行時に対象となるテーブルは、選択テーブル一覧に表示し、登録したテーブルになります。

機能キーの【全選択】ボタンでテーブル一覧の対象となる全テーブルを一度に選択できます。また、【全解除】ボタンでテーブル一覧の対象の全チェックを一度に解除します。

画面中央の【登録（決定)】ボタン、または機能キーの【登録（決定)】ボタンを選択すると、選択テーブル一覧に表示しているテーブルをバックアップ対象として登録します。

■機能ボタンエリア

No.	表示名	機能
1	戻る	前画面に戻ります
2	全選択	テーブル一覧の全てに対象チェックをつけます
3	全解除	テーブル一覧の全てに対象チェックをはずします
4	登録(決定)	選択テーブルをバックアップ対象とし登録します
5	取消(クリア)	入力内容を取り消して画面をクリアします
6	ログアウト	ログアウトしてログイン画面を表示します
7	終了	DBCopyTool プログラムを終了します

機能ボタンエリアの No4 は、同画面にある同じ名称のボタンと同様の機能です。

２－６　抽出（入力）条件の設定

メイン画面から【抽出（入力）条件の設定】ボタン、または機能ボタンエリアの【抽出（条件】（F6）を選択します。下記の画面が表示されます。

本画面では、バックアップ対象となる各テーブルを oracle　DB より抽出する際に抽出条件を設定できます。 画面左上の対象テーブルから、条件を設定するテーブルを選択します。テーブルを選択すると、右横のテーブルカラム名のリストが、選択したテーブルのカラム名に設定されます。画面中央の抽出条件を設定することで、バックアップ実行の抽出条件となります。設定した条件は、機能ボタンの【SQL 確認】ボタンを押下すると、SQL 文で確認できます。

■編集エリア

No.	表示名	機能
1	テーブルの条件追加	現在の対象テーブルに条件を 1 行追加します
2	条件の削除	選択中の条件を削除します
3	カラム（項目）	カラム一覧で選択中のカラム名を条件欄に追加します
4	前回実行日付（日付型）	前回実行した日付を日付型の条件文で追加します
5	前回実行日付（文字型）	前回実行した日付を文字型の条件文で追加します
6	条件クリア	選択中の条件欄をクリアします
7	（その他条件文の記号）	条件文に使用する演算子や括弧を入力します

＊日付型は TO_DATE(),文字型は TO_CHAR()を使用した条件文になります。

■機能ボタンエリア

No.	表示名	機能
1	戻る	前画面に戻ります
2	テーブル	テーブル一覧をアクティブにします
3	カラム(項目)	カラム一覧をアクティブにします
4	抽出条件	抽出条件をアクティブにします
5	登録(決定)	入力内容を取り消して画面をクリアします
6	SQL 確認	選択中の入力条件を SQL で確認します
7	取消し(クリア)	入力した全内容を取り消し、画面をクリアします
8	ログアウト	ログアウトしてログイン画面を表示します
9	終了	DBCopyTool プログラムを終了します

機能ボタンエリアの No5～No6 は、同画面にある同じ名称のボタンと同様の機能です。

２－７　バックアップ条件の設定

メイン画面から【バックアップ条件の設定】ボタン、または機能ボタンエリアの【バックアップ条件】(F7)を選択します。下記の画面が表示されます。

バックアップ条件では、下記の項目を選択します。

(1)バックアップ方法

　バックアップ時の動作を下記から選択します。

　・抽出･･･Access でバックアップしたデータを oracle　テーブル上から**削除しません**。

　・切取･･･Access にバックアップしたデータを oracle　テーブル上から**削除します**。

(2)バックアップ保存場所

　バックアップしたデータの保存場所のパスと指定します。

　・規定･･･C ドライブの TEMP フォルダ。

　・指定･･･フォルダの参照画面から、バックアップデータの保存フォルダを指定。

＊バックアップされたファイル名は下記のファイル名になります。

DTBAK_ + YYYYMMDDHHMISS(実行日時) + .MDB

２－８　タイマー設定・即時実行

メイン画面から【タイマー設定・即時実行】ボタン、または、機能ボタンエリアの【タイマー設定】(F8)を選択します。下記の画面が表示されます。

タイマー設定・即時実行画面では、下記の機能を行います。

(1)タイマー実行履歴の表示

タイマーの実行履歴を最新の時間順(降順)に表示します。表示期間は日付の期間指定で変更できます。日付入力の横のボタンでカレンダーからも入力できます。
期間の変更際には【再表示】ボタンを選択し、再表示を行います。
また、表示順序は降順/昇順のラジオボタンを切り替えるごとに表示を変更します。

(2)実行条件の設定

バックアップをタイマー設定で実行する場合に、開始日時と2回目以降の実行間隔を指定します。(実行間隔の最短は10分毎で、最長は10年です。)
設定時は、【タイマーにセット】ボタンを選択します。
また、解除する場合は【セット解除】ボタンを選択します。
タイマーをスタートさせる場合は【開始】ボタンを、停止の際は【停止】ボタンを選択します。
タイマーが停止している場合は、条件を設定しても実行されません。
＊条件の設定時は、タイマーを停止状態にしておき、設定後にタイマーを開始することを推奨いたします。

(3)即時実行

タイマーの設定の状態とは関係なく、即時にバックアップを実行する場合には、【即時実行】ボタンを選択します。

■機能ボタンエリア

No.	表示名	機能
1	戻る	前画面に戻ります
2	実行履歴再表示	実行履歴一覧を再表示します
3	ログ照会	操作ログを表示します
4	即時実行	即時にバックアップを行います
5	取消し(クリア)	入力内容を取り消して画面をクリアします
6	ログアウト	ログアウトしてログイン画面を表示します
7	終了	DBCopyTool プログラムを終了します

機能ボタンエリアの No2～No4 は、同画面にある同じ名称のボタンと同様の機能です。

＜タイマー設定モニター画面について＞

DBCopyTool プログラムでは、メイン画面とは別にタイマー状況のモニター画面を常に表示しています。

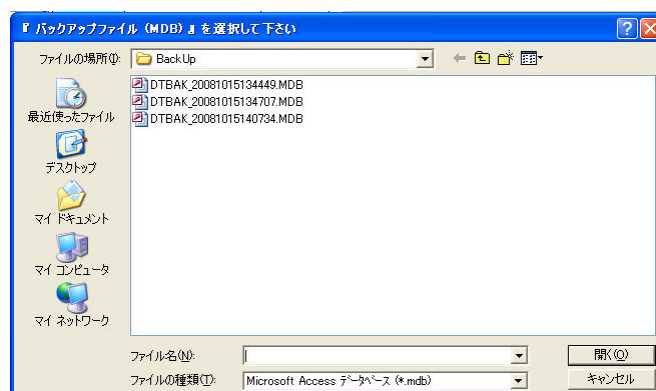
　プログラムの起動と同時に下記の画面を表示しています。この画面でもタイマー設定画面と同様にタイマーの開始と停止を行うことができます。(開始と設定はログイン後に可能になります)

■タイマー停止中

■タイマー実行中

２－９　バックアップデータの復帰

メイン画面から【バックアップデータの復帰】ボタンを選択します。下記の画面が表示されます。

復帰するバックファイルを画面中央の【選択】ボタンから選択します。
＊同じ構造を持つ異なるデータベースに内容を入れる場合は、先に対象とするデータベース
　の選択を行います。

バックファイルを選択すると、バックアップファイルに含まれるテーブル名が一覧表示されます。
復帰したいテーブルをチェックして選択します。
　テーブル一覧の右に表示されたオプションで、「全件削除して復帰する」にチェックをつけた場合は、先にテーブルの内容が削除されてから、バックアップデータを復帰します。

また、「プライマリーキーが同一データ」のオプションでは、同一データがあった場合に、「復帰しない」または「復帰する」（同一データを削除して復帰＝置換）のいずれかをチェックをします。

設定ができたら、【データの復帰】ボタンを選択して、データのリストアを実行します。

■機能ボタンエリア

No.	表示名	機能
1	戻る	前画面に戻ります
2	全選択	テーブル一覧の全データを選択チェックします
3	全解除	テーブル一覧の全データを選択解除します
4	復帰	データを復帰します
5	取消し（クリア）	入力内容を取り消して画面をクリアします
6	ログアウト	ログアウトしてログイン画面を表示します
7	終了	DBCopyTool プログラムを終了します

機能ボタンエリアの No4 は、同画面にある同じ名称のボタンと同様の機能です。

２－１０　操作記録（ログ）の照会

メイン画面から【操作記録(ログ)の照会】ボタン、または、機能ボタンエリアの【ログ照会】(F9)を選択します。下記の画面が表示されます。
タブを切り替えて操作ログ、タイマー履歴、エラーログの表示を行います。
表示するデータは【機能】の項目を選択することで絞ることができます。

■操作記録(ログ)

機能ボタンエリア･･･各機能の画面を表示、又は
その他の動作を行います。

■タイマー実行履歴

■ランタイムエラー画面

■機能ボタンエリア

No.	表示名	機能
1	戻る	前画面に戻ります
2	先頭	リストの先頭を表示します
3	最後	リストの最後を表示します
4	操作ログ	操作ログを表示します
5	タイマー実行	タイマー実行履歴を表示します
6	エラー	エラーログを表示します
7	最新表示	表示内容を最新にします
8	メイン画面	メイン画面を表示します
9	ログアウト	ログアウトしてログイン画面を表示します
10	終了	DBCopyTool プログラムを終了します

２－１１　管理（利用者マスタ etc）

メイン画面から【管理(利用者マスタ etc】ボタン、または、機能ボタンエリアの【管理】(F3)を選択します。下記の画面が表示されます。

本画面では、下記の管理を行います。

(1)利用者マスタメンテナンス

　　上記画面から【利用者マスタメンテナンス】ボタンを選択すると、利用者マスタメンテナンス画面が表示されます。(下記の画面を参照)

(2)記録(ログ管理)

　　ログファイルについいて、手動でクリアする場合に下記の項目を選択します。

■記録(ログ)管理のボタン

No.	表示名	機能
1	バックアップしてクリアする	今までのログを backup フォルダに出力してから内容をクリアします
2	バックアップのみ	ログ内容を backup フォルダに出力します。内容のクリアは行いません
3	クリア	ログ内容をクリアします。バックアップは行いません
4	操作記録(ログ)の照会	操作記録(ログ)の照会画面が表示されます (詳細は『操作記録(ログ)の照会』の項目を参照)

■機能ボタンエリア

No.	表示名	機能
1	戻る	前画面に戻ります
2	利用者マスタ	利用者マスタメンテナンス画面を表示します
3	ログ照会	操作記録(ログ)の照会画面を表示します
4	ログアウト	ログアウトしてログイン画面を表示します
5	終了	DBCopyTool プログラムを終了します

機能ボタンエリアの No2〜No3 は、同画面にある同じ名称のボタンと同様の機能です。

■利用者マスタメンテナンス画面

前画面の【利用者マスタナンス】ボタンから上記画面が起動されます。新しいユーザーを入力する場合は最後行に入力して、登録します。最後行を入力すると、その下に新規入力用の行が追加されます。利用者を完全に削除する場合は【利用者の完全削除（物理削除）】ボタンを選択して下さい。

通常は下記の項目を設定します。

(1)利用者（ログイン ID）
(2)氏名
(3)表示用略称
(4)権限
(5)利用期間（From～To）
(6)削除フラグ（論理的削除）　・・・　チェックで削除

各項目を設定後に【登録】ボタンを選択して、利用者が登録します。パスワードは、【パスワード初期化】ボタンで初期化することはできますが、一旦利用者が設定したパスワードを表示することはできません。初期化した場合のパスワードは「DBTL_Ac2K」になります。

■機能ボタンエリア

No.	表示名	機能
1	戻る	前画面に戻ります
2	登録	入力内容を登録します
3	取消し（クリア）	入力内容を取り消して画面をクリアします
4	メイン画面	メイン画面を表示します
5	ログアウト	ログアウトしてログイン画面を表示します
6	終了	DBCopyTool プログラムを終了します

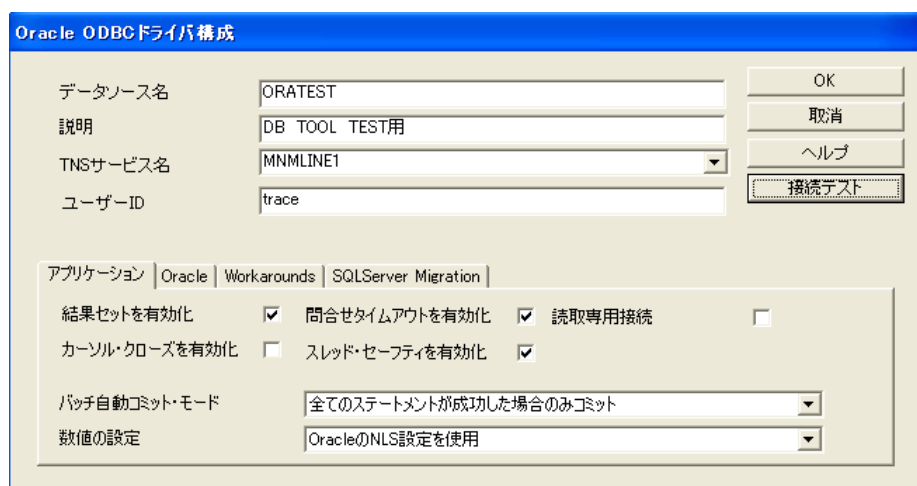
機能ボタンエリアの No4は、同画面にある同じ名称のボタンと同様の機能です。

3 参考資料

3－1　ODBC データソースアドミニストレータの設定

ここでは、コントロールパネルの管理ツールの ODBC データアドミニストレータで設定する方法を説明します。

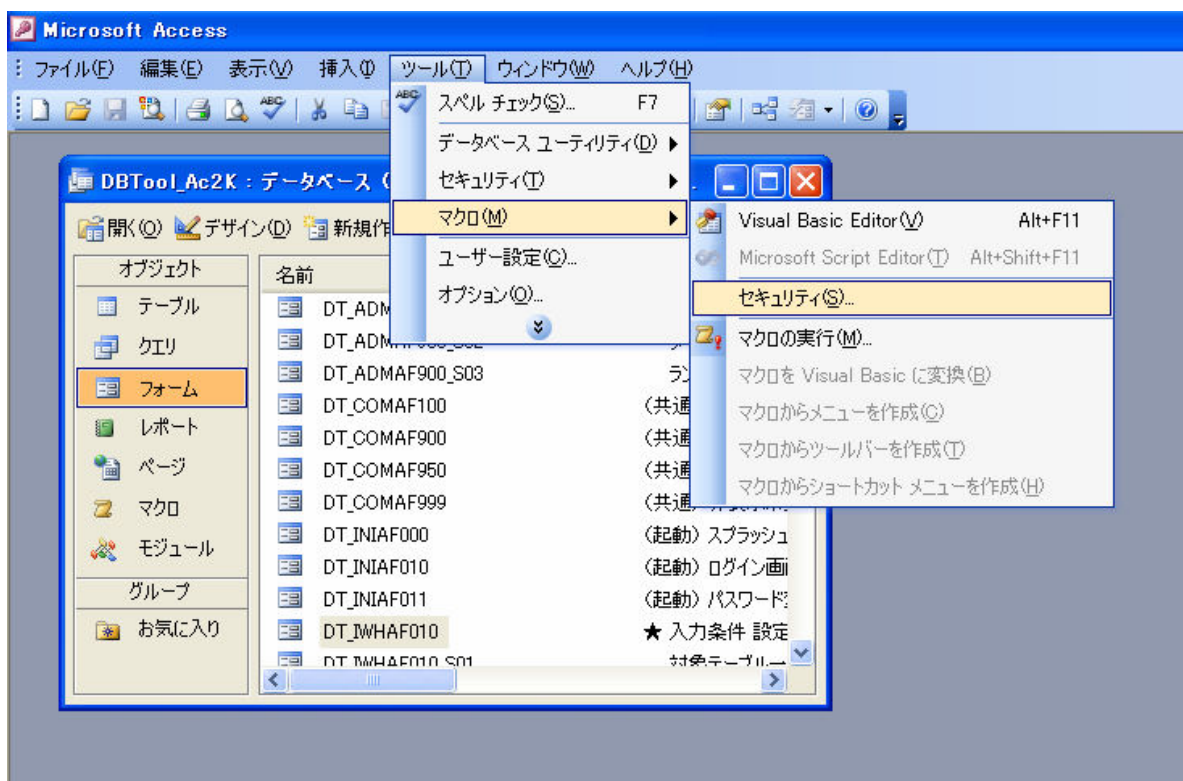
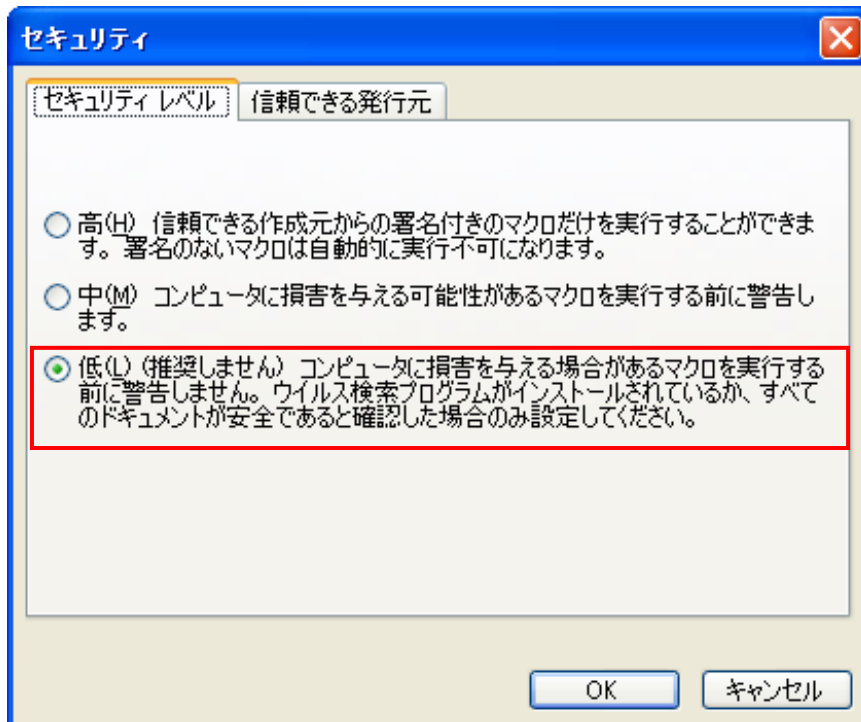
「コントロールパネル」―「管理ツール」―「データ ソース (ODBC)」を起動します。

「システム DSN」タブを選択して表示し、【追加】ボタンで『データソースの新規作成』ダイアログ画面を表示します。Oracle のデータソースドライバを選択して、データソース名を入力します。

【接続テスト】ボタンで Oracle との接続を確認して終了します。

ここで登録したデータソース名は本ツールの『対象データベースの登録』で表示されます。本説明書の『対象データベースの登録』の項目を参照して下さい。

３－２　Access マクロセキュリティの設定方法

通常、Access の初期設定では、マクロのセキュリティが「中」の設定になっています。

マクロのセキュリティが「中」以上の場合、上図の警告メッセージが表示されます。
警告メッセージを表示したくない場合は、下記設定を行ないます。

１．Access メニューの「ツール」→「マクロ」→「セキュリティ」を選択する。

２．セキュリティレベルの「低」を選択して OK を押下する。

これで、次回起動時から警告メッセージが表示されなくなります。

※マクロが存在する Access ファイルを開いた場合は全て警告メッセージが表示されなくなるので、この設定は任意で行なって下さい。